

令和5年度

人 権 を 学 ぶ 会

「 ま と め 」

実施期間：令和5年 9 月～12月

北 栄 町
北栄町教育委員会
北栄町人権教育・啓発推進協議会

令和5年度 人権を学ぶ会 実施概要

北栄町の将来像である「人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち」の実現のため、人権を尊重するまちづくりを推進する必要がある。その具体的な取り組みとして、町民一人ひとりが学ぶことをきっかけとして、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざして「人権を学ぶ会」を実施した。

今年度の学習内容は、事務局が指定した DVD 視聴による学習と、各自治会の希望テーマによる個別学習から各自治会が選択し実施した。

また、新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、開催にあたっては、各自治会の主体性を尊重し、実施の可否や参加定員の設定などは各自治会において判断していただいた。

なお、人権を学ぶ会の開催は 9 月2日から始まり、12月3日で終了した。

【実施状況】

実施自治会	52自治会（昨年度 37 自治会）
未実施自治会	11 自治会（昨年度 26 自治会）

【学習内容】

DVD 視聴	51自治会
個別学習	1自治会（講演会：高齢者と人権）

(学習のポイント・ねらい)

- 人権問題が私たちの生活の中で身近にあり、自分自身に関わる問題でもあることに気づき、問題解決に向けて自分たちに何ができるかを考える。
- これまでの自分の行動や発言について、差別に結びつくことや偏見などがなかったか振り返る。
- 人権問題に対する正しい認識や判断力を持ち、身のまわりの不合理を正していくための力をつけるために、継続的な学習参加の必要性を認識する。
- 一人ひとりが地域社会を担う一員であることを自覚し、お互いを認め合い、人と人との助け合い、支え合い、交流により、すべての人の人権が尊重された安心して暮らせるまちづくりにつなげる。

令和5年度 人権を学ぶ会 まとめ

実施期間 令和5年 9月～12月

実施自治会 52自治会

参加者数 818人（昨年度 591人）

参加率 16.5%（昨年度 12.0%）

〔参加者の意見から〕

人権を学ぶ会の取り組みについて(抜粋)

- 学ぶ会への参加は、自分の行動を見直す機会となっている。
- 共通の場での学習は大事。
- 毎年開催されることで、新たな気づきがあるし、再確認することもあると思う。
- 人権学習を通じて、日々の暮らしを見つめ直すことができると思う。
- 人権学習は継続する事が大事。今まで正しかったことが今後も正しいとは限らないから。
- 普段考えていないことに気づかされる。考えることができる場。
- もう少し多くの人に参加してもらいたい。その人のためになりますから。
- 分かりやすい身近な問題を取り上げてほしい。

〔考察〕

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが5類感染症に移行し、自治会行事を再開される自治会が増え、人権を学ぶ会の実施自治会は昨年より15自治会增加し 52自治会で開催され、参加者数も昨年より微増の 818人(227人増)となった。

しかし、コロナの影響から4年間未実施の自治会もあることから、数年ぶりの人権を学ぶ会の開催となった場合など、自治会内の実施体制や参加意欲などが懸念されることから、今後そのような自治会に対する適切なフォローが必要となる。

今年度の人権を学ぶ会は、アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)から生まれる身近な人権問題を取り扱うことで、自分自身を振り返り、自分事として考えることができるかを狙いとし、教材DVD「話せてよかった」を町推奨教材として実施した。

また、昨年に引き続き、人権を学ぶ会以外での学習機会を提供するため、琴浦町・湯梨浜町・北栄町3町で連携しTCC人権啓発番組『「誰か」のことじゃない』を作成し、TCCでの放映やホームページに掲載した。

社会・地域・家庭・自分を振り返っての意見(抜粋)

- 身近なことを取り上げてあり日常でよく体験することだったので、自分に置き換えて考える事が出来た。
- 気づけなかった事に気づくことができた。世間の声に影響されずに話を聞くこと、相手を知ろうとすることが大切だと思いました。
- 自分自身も反省し、相手の身にもなってみないといけないなと、つくづく思いました。
- 家族と言ってもお互いの気持ち、考えを確認することの大切さを学んだ。
- 思い込みにしる偏見にしる、このように立ち止まって話し合う事で、自分自身を見つめ直すことができるなあと改めて思いました。
- 会話・話しをすることで、お互いに理解することができるかなと思いました。コロナ禍で人とのつき合いが難しい時期があったので、今日の内容はすごく心にささりましたね。

〔考察〕

人権を学ぶ会を実施した 52 の自治会のうち、48 の自治会で教材 DVD「話せてよかった」を視聴し、アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)について学んだ。

参加者からは、「身近な内容であったので、自分事として考えやすかった。」、「話を聞くこと。相手を知ろうとすることが大切だと思いました。」などの意見が多くあった。

これらの意見から、今年度の学習テーマが身近にある日常生活の中で起こりうるもので、自分事としてを振り返ることができる内容であったことが伺える。

学んだことから行動に活かす意見(抜粋)

- 相手の考え、気持ちを聞くこと(最後まで)も、分かり合える手段かなと思う。世間の声、世間の考えに捉われないことも、自分としては大切なこと。左右されない自分でありたいと思う。
- 家でも物事を一緒に考え、一方通行にならないようにしていきたい。分かっているつもりという考えを捨て、一つ一つを話し合っていきたい。
- 相手を思いやる事を常に考えていきたい。
- 我が家を見ているようで「ある、ある!」と思いながら見ました。自分も今までの経験や自分の思いが優先してしまい、自分中心の考えになってしまっています。少しずつ相手を一人の人として接していくようにしたいと感じました。
- 自分と相手と向き合うことの大切さを今後活かしたい。人と会話することの大切さを学んだ。

〔考察〕

「自分の暮らしを見つめ直したいと思った。」、「今日の学習内容を今後活かしたい。」という意見を多くいただいた。自分の家庭や身の回りについて振り返ることで、

家庭や地域での人との関わり方を改めて考えるなど、学びを深める機会となっている。

人権を学ぶことで、一人ひとりが大切にされ、共に支え合える地域につながっていくことをさらに伝え、それぞれの行動を促していく必要がある。

〔参加者アンケート結果から〕

●アンケートの概要

次年度以降の学習方法・内容等の検討資料とするため、人権を学ぶ会の参加者を対象にアンケートを実施した。

また、平成 30 年度よりアンケートにおける性別欄を撤廃した。これは、性的少数者への配慮に加え、性別の記載が必要な情報ではないと北栄町人権教育推進協力員会議で判断したことによる。

なお、これまではアンケートの回収率を上げるために、会の途中に記入時間を設けていたが、複数の要望を受け、令和 2 年度より訪問者の終わりの挨拶の後、閉会後にアンケート記入するよう日程を変更し、高い回収率となっている。

◆アンケート回収率 93.4%(参加者 818 人中 764 人分回収)

※昨年度回収率 94.8%(参加者 591 人中 560 人分回収)

◆アンケート回答者の年齢

(単位:%)

	19 歳 以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代 以上
R5 年	0.6	0.4	2.5	10.6	16.3	32.9	29.0	7.7
R4 年	1.2	0.4	3.4	11.4	15.0	35.8	29.9	2.9
R3 年	1.0	0.5	3.6	9.8	16.0	39.9	25.8	3.4
R2 年	0.2	0.2	4.4	14.3	18.2	36.4	23.5	2.8
R 元年	3.9	0.5	5.0	14.4	17.1	33.7	22.1	3.3

〔考察〕

全ての参加者のうち、50 代以下と 60 代以上で区分した場合の参加者割合は、50 代以下は全体の 30.1%(昨年 31%)、60 代以上は全体の 69.9%(昨年 69%)となり、若年層の参加率が低い傾向が続いている。

DVD 視聴等を中心とした現在の学習方法は、中高生などを含めた若年層の参加も十分意義があり、参加者からも若い人に参加してほしいとの声もあることから、今後も若年層の参加を増やしていくために、家族ぐるみの参加を促すことや、学校等への働きかけも継続していく必要がある。

●アンケート結果と分析(数値:%)

問1 本日の人権を学ぶ会に参加して、あてはまる回答にひとつ○をしてください。

① 今日の学習内容(DVD・ミニ講演等の内容)は、

	ア わかりやすかった	イ わかりにくかった	ウ どちらともいえない
R5 年	93.1	1.2	5.7
R4 年	95.4	0.2	4.4
R3 年	95.8	2.0	2.2
R2 年	90.8	2.6	6.6
R 元年	83.8	4.2	12.0

〔考察〕

学習内容について「わかりやすかった」と回答した参加者は 93.1%で、昨年に引き続き高い割合となっている。

今年度は多くの自治会で教材 DVD「話せてよかった」を活用した学習を実施されたが、アンケート意見の中には、「視聴のポイントが明確で、内容も理解しやすかった」、「普段の生活の中にある身近な内容で、自分事として捉えられ、とても分かりやすかった」、「身近にある日常生活の中で起こりうる内容で、自分を振り返り学ぶことができた」などの意見もあり、結果はその現れと考えられる。

今回のテーマであるアンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)は、家庭や職場での人との関わり方に影響を与えるため、参加者は、自分の中の思い込みや偏見に気づき、その対応の方法や寄り添う気持ちを持つことなど参加者の多くが自分事としてイメージしやすい学習内容だったこともこの高い割合につながっていると考えられる。

② 今回の人権を学ぶ会に参加して、今後に活かせる学習に

	ア なった	イ ならなかった	ウ どちらともいえない
R5 年	89.4	0.5	10.1
R4 年	91.6	0.2	8.3
R3 年	92.1	0.7	7.2
R2 年	86.3	0.7	13.0
R 元年	78.0	0.8	21.2

〔考察〕

昨年と比較すると、今後に活かせる学習になったとする割合は減少したが、9割近い割合となっている。これは、「日常、学習内容と重なる生活をしていると感じました。明日からの生活に活かしたいです」「自分のことを振り返りできるので活かせる」などの意見にもあるように、DVD の視聴により、これまでの自分自身を振り返り、自分の中の思い込みについて改めて気づくことができるなど、自分事として捉えやすかったことも考えられる。

人権問題の解消は、まず「知る、感じる、気づく」ことから始まり「行動」へと繋がっていくものであり、今後も「知る、感じる、気づく」を導く学習テーマや教材を提供し、一人ひとりの「行動」につながる学習としていく必要がある。

③ 次回の人権を学ぶ会は、

	ア 参加したい	イ 参加したくない	ウ どちらともいえない
R5 年	76.0	0.7	23.3
R4 年	73.5	0.5	26.0
R3 年	80.0	0.5	19.5
R2 年	74.3	0.7	25.0
R 元年	68.0	1.4	30.6

〔考察〕

設問①の分かりやすさや、設問④の満足度の高さに比較して、次回も参加したいと回答した割合は昨年度から上昇したもののそれほど高い割合となっていない。これは、問 2 でも後述するが、はじめて参加した人の次回も参加したいとする回答の割合が低いことから、結果として次回も参加したいとする全体の割合を押し下げていることが推察される。

「参加したい」の理由として、「新しい気づきがあるから。」、「その都度考えさせられることがあり、自分自身の意識も変わるため。」、「人権に関する勉強は繰り返しが必要」など、人権を学ぶ会が新たな知識を得ることができることや、継続した学習をすることで自らの人権意識をチェックする機会となっており、実際に学びを感じた参加者が次回も参加したいとする前向きな意見につながっていることが伺える。

一方で、「どちらともいえない」と回答した意見の中では、昨年に引き続き「学びたいテーマであれば参加する」、「時間帯が合えば参加する」などの意見も複数あった。

また、「参加者が少なく残念」などの意見もあり、様々な人権問題について興味関心を持っていただく効果的な周知とともに、より参加しやすい開催方法や時間など、自治会と一緒に検討することが必要である。

④ 今回の人権を学ぶ会の満足度はどれくらいですか？

	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
R5 年	44.0	46.9	8.1	0.7	0.3
R4 年	46.0	45.4	7.7	0.7	0.2
R3 年	49.0	43.1	6.3	1.3	0.3
R2 年	37.3	49.2	12.6	0.4	0.6
R 元年	27.4	52.6	18.0	1.9	0.1

〔考察〕

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると 90.9%になる。満足度が 9 割を超えるのは、1 昨年から継続している。これは、設問①の分かりやすさや設問②の今後に活かせる学習になったとする回答も高い割合だったことも要因として挙げられ、分かりやすさに加え、身近なテーマ設定での学習内容が満足度を押し上げたものと推察される。

問 2 この 3 年間に人権学習の場に何回参加されましたか？

	ア 5回以上	イ 3回～4回	ウ 1回～2回	エ はじめて
R5 年	13.4	25.2	33.2	28.2
R4 年	13.7	25.9	33.3	27.0
R3 年	14.8	34.0	32.7	18.4
R2 年	17.9	37.1	30.0	15.0
R 元年	18.2	33.6	30.2	18.0

〔考察〕

はじめて参加した人の割合が過去 5 年間で最も高い割合となった。特に 7 自治会で、はじめて参加した人の割合が参加者の 5 割を超えていた。

これについては、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したものの、昨年に引き続き自治会役員のための参加制限で実施された自治会があったため、はじめて参加された人が増加したことによるものである。

今後とも、新たな参加者を増やし人権を学ぶきっかけにつなげていくことと同時に、継続した学びとしていく工夫や人権を学ぶ会で取り上げるテーマと関連する団体等と連携し、人権の取り組みの裾野を広げていくことを意識しながら、引き続き連携・啓発に努める必要がある。

問 3 今後、学びたい人権テーマや、興味ある人権テーマは？(上位 5 テーマ)

①高齢者の人権	250 人(14.9%)	昨年 2 位
②障がいのある人の人権	209 人(12.4%)	昨年 1 位
③個人のプライバシーに関する人権	174 人(10.3%)	昨年 7 位
④子どもの人権	152 人(9.0%)	昨年 3 位
⑤インターネットにおける人権	151 人(9.0%)	昨年 4 位

問 4 今回の学習内容(人権問題)に関連したご意見・ご感想をご記入願います。

〔主な記述の抜粋〕

- ・会話が大切ということが扱われたのは、良かったと思っています。
- ・相手を知るためには、自分が変わらなければならないと知った。難しいことだが。
- ・テーマが身近な問題でよかった。人権問題全般につながるもの。
- ・大人だけでなく子どもたちにも見てもらったらよかったな！という内容でした。
- ・改めて人権問題を学び、無意識で他の人を色眼鏡で見たりしていなかったか

と、振り返る事ができました。

- ・世間の噂の怖さ、思い込みの怖さ。相手をきちんと見ることの大切さを改めて知りました。
- ・家族にしても、地域の人にしても話をする事で、お互いの思いの違いを知り、話をする事で共感もできる。話し合いの大切さを学びました。
- ・ポイントと合わせ、良い資料でした。

〔考察〕

「相手の事を思いやることが大切」、「互いに話し合うことの大切さを再認識させられた。」などの感想をいただいた。

人がそれぞれ持っている価値観の違いを認め、相手を大切に思うことは人権の基本的な考え方であり、今年度の学習内容が、自分の中にある思い込みに気づき、自分も相手も尊重することを改めて考えていただく機会になっていることが伺える。

また、DVD 視聴のポイントだけではなく、アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)についての配布資料も分かりやすかったとする意見もあり、学びを深めるためにも配布資料も含めさらに工夫していくことが必要である。

問 5 本町人権教育の取り組みについて、ご意見・ご要望があれば記入願います。

〔主な記述の抜粋〕

- ・地域に出向き、自治会ごとに人権について考える機会をつくる、取り組むことはいいことだと思います。継続することが大切だと思います。
- ・内容は良いと思うが、参加者が少ないため伝える部分が少ない気がする。ケーブルTVとかで定期的に放送するなどした方がよいと思う。
- ・いろんなことをテーマに取り組んでおられると思います。地域のカラーとして、せっかく学んだり取り組んだりしているので、活かしていくことにつながればと思います。
- ・今後も人権を学ぶ会を継続して実施してほしい。
- ・積極的な推進を続けていただくことを願っている。また、その一つの役割を果たしていく自分でありたい。
- ・暮らしやすい地域づくり、お互い頑張りましょう。

〔考察〕

いただいた様々なご意見について十分に検討していく必要がある。例年は若年層の参加促進や、他の自治会行事と併せた開催で参加者を増やすべきなどの意見をいただいている。

また、昨年度に引き続き「ネットなどでも DVD 教材を放送してほしい」という意見に応え、琴浦町・湯梨浜町・北栄町 3 町で連携し TCC 人権啓発番組の放映やホームページでの視聴も可能にした。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、自治会活動が再開されているが、今後も、町

民が積極的に参加できるような人権教育の取り組みを検討する必要がある。

【おわりに】

近年、少子高齢化、核家族化、ひとり親世帯の増加や地域のつながりの希薄化から、家族内や地域内での互いが支え合う力の低下が問題となっている。また、コミュニケーションの低下した状態での人間関係は、お互いを思い合い、違いを認め合うことも遠ざけてしまう。

このような社会状況の中で、地域の共助や地域全体で支える力を維持・再構築するためにも、町民一人ひとりが人権について学び、「誰一人取り残されない」地域にしていけるよう一緒に考え、実践することは重要であり、「人権を学ぶ会」の果たす役割も益々大きくなっている。

今後も、様々な人権問題の解消と人権が尊重された住みよいまちづくり推進のため、「人権を学ぶ会」を充実・発展させていき、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざす必要がある。